

平成30年度第1回狭山市立図書館協議会会議録

- 開催日時 平成30年7月12日(木)
午前10時～午前11時20分
- 開催場所 中央図書館 視聴覚室
- 出席者 横田保太郎職務代理
萩原一夫委員 小口英吉委員
末田万裕子委員 田中喜美代委員
五百旗頭洋子委員 佐伯哲雄委員
- 欠席者 岡澤陽子委員長 中島憲昭委員 久住晴美委員
- 事務局 向野教育長 滝嶋生涯学習部長
(中央図書館) 田地館長 加藤主幹 平沢主幹
(狭山台図書館) 吉田館長
(教育センター) 紫竹教育センター所長
- 傍聴者 なし
- 協議事項 (1) 平成29年度事業報告について
(2) 平成30年度事業計画について
(3) 狭山市子ども読書活動推進計画について

会議の経過

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 事務局異動職員紹介
- 4 議 事

- (1) 平成29年度事業報告について
事務局より「図書館要覧」に基づいて説明を行った。

委員 出前事業は、希望した学校全部に行うことができたのか。あるいは、限りがあるので、希望していても選に漏れる場合もあるのか。

事務局 年度初めに、各学校に希望調査を行う。その中で調整できる範囲は調整している。例えば、同時期に重なることが多く、同じ学校で違う学年から申し込みがある場合は、ひと学年に絞ってもらい多くの学校に出向けるように調整をしたり、他の時期でできるかを打診して調整したりもしている。

委員 図書館要覧 p 19 の高校図書館への団体貸出 2 冊というのは市内にある高校に、狭山市立図書館所蔵の図書を貸し出したのが 2 冊ということか。

事務局 お見込みの通り。
なお、県立高校の場合、埼玉県立図書館職員が高校図書館の司書として配属されているため、県立図書館の本を借りることもあり、その場合に狭山市立図書館を中継して渡すこともある。その件数はカウントしていない。

委員 高校図書館以外の、小中学校の図書館への貸出実績についてはどこに掲載されているか。

事務局 要覧同ページの、高校の欄の上段「学校への団体貸出」に記載されている。

委員 児童書やヤングアダルトの、団体ではなく個人への貸出について、児童あるいは生徒の一日あたりの貸出数がわかったら教えてほしい、

事務局 図書館利用者に限らず、狭山市の 18 歳以下人口一人当たりの年間貸出冊数が約 14 冊という統計は出ている。図書館利用者の 18 歳以下の一泊あたり貸出冊数の統計は出していない。
要覧 p 25 に、全年齢の一日の平均貸出件数が 2 千件くらいであることが掲載されているが、児童書のみでの貸出冊数の掲載はない。

職務代理 もし数値が調べられるようなら、今後提示していただきたい。

- (2) 平成30年度事業計画について
事務局より「図書館要覧」に基づいて説明を行った。

職務代理 レファレンスについて、図書館向けデジタル化資料送信サービスについての説明をして欲しい。

事務局 国立国会図書館の所蔵する資料のうち、著作権処理ができていない資料、古典籍などをスキャンしてデジタル化し、Webで公開している。自宅のインターネットで見られるものもあるが、国立国会図書館に利用登録を申し込んだ図書館だけで見られる資料もある。中央図書館は登録しているので、館内の専用端末でそれらを見ることができる。今後ホームページや館内掲示などで利用者に周知していきたい。

職務代理 国会図書館では保存などの観点でデジタル化が進行している。そのデジタル化資料を利用して、狭山市立図書館に無い資料も、国会図書館に行かなくても、その資料が見られるようになる。このようなサービスもあるということで紹介させていただいた。

委員 質問① 実績とも係ってくるが、要覧p11の計画にある教員研修の受入の実績は。

質問② 要覧p30の冊数とは、所蔵複本数のことか。

質問③ 希望として述べるが、資料1にさやまの100冊を読破した子どもの割合が出ているが、割合が少ないようである。選書に課題があるのではないか。何年かに一度、選書内容の改訂が必要であり、選定メンバーに教育関係者だけでなく、幅広い人材にかかわってもらって、広い視野で選定してはどうか。

事務局 質問①について、ここ数年実績は無い。教員研修のプログラムの中で、図書館での研修を希望した教員がいれば、受け入れるというスタンス。質問②については、お見込みの通り。予約件数が10件を超えると、1冊複本を増やしている。ただし、複本数が10冊を超える場合は、ブームが去った後に、置き場所などの問題が生じるため、それ以上の複本の増加については、慎重に取り扱う。質問③について、すべての本の読破を目指すのは、子どもの興味関心が向く方向も違うので難しい。選定については、以前も説明申し上げたが、選定から10年はもち、子どもの成長の糧となるようなリストとして作成した。学校の出前講座でも、狭山の100冊の本を紹介す

るようにしている。紹介することで、それらの本が利用される。そうした子どもと本を「つなぐ」ということが大切だが、そのあたりが足りないのではないかと思い、昨年度から、狭山の100冊を紹介する講座を開くなどしている。

委員 選定委員についてはどうか。

事務局 当初、学校の先生に加え図書館にも声がかかったので、図書館司書も選定に参加した。

委員 希望だが、学校の先生だけでなく、学校以外の社会で人生を送っているさまざまな世代に集まってもらって、選定してもらってはどうか。また、教員の研修受入については、何年も実績がなく、図書館も、希望があれば受け入れるというスタンスであれば、計画への掲載について検討してもよいのではないか。

職務代理 事務局のほうでも、さやまの100冊、教員研修については今後検討していただきたい。

委員 要覧p31ベストリーダーの20冊に「はじめてのえほん」に掲載の17冊の内16冊がランクインしている。推薦されていることや手に取りやすい排架であることもあって、これらが上位に来ることは当然予測されることであり、むしろその順位より後のベストリーダーの傾向が掲載されているほうが、傾向の分析などに役立つと思う。はじめて絵本とその他を分けてベストリーダーを出してはどうか。

事務局 統計上の機能の関係で、現在はそのような内容での掲載となっているので、ご理解いただきたい。

委員 児童書は、親が借りた本と子どもが借りた本が混在する。統計として質問だが、保健センターでの育児学級で行われる絵本についての説明は、市内の全対象者に対して行われるのか、希望者のみなのか。

事務局 育児学級は、第1子が優先で、余裕があれば第2子以降でも参加できると思われる。第1子の全員参加ではなく、希望者が対象である。

委員 要覧p10の図書館実習の受入について、どのような内容か。

事務局 例えば昨年は秋草学園短期大学の学生が一人、約2週間に渡って図書館実習を行った。カウンターなどの表面から見える仕事だけではなく、バックヤードでの利用者の立場では見えにくい仕事も合わせて実習を行っている。

委員 大学単位での申し込みか、または、個人の申し込みで受け入れるのか。

事務局 大学からの申し出で受け入れている。個人単位での受け入れは、行っていない。

委員 29年度は年間で1名のようなのだが、過去にさかのぼっては複数名の受入もあるのか。

事務局 一昨年も年間で1名だった。

(3) 狭山市子ども読書活動推進計画について

事務局より「資料1」「第2次狭山市子ども読書活動推進計画」に基づいての説明、及び、子供の読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰の受賞報告を行った。

質疑・ご意見等 特になし

5 その他

事務局より、今年度は図書館システムの更新を予定しており、現在は入れ替えの協議中であることと、8月の特集本コーナーの内容に合わせた、平和と戦争に関する映画会の開催の説明を行った。

委員 システム入れ替えの時期は大体いつごろか。

事務局 12月末に入れ替え、1月に本稼動できればと考えている。また、システム入れ替えには何日間かの休館日の設定が必要になるが、蔵書点検を行ってからシステムの入替えを同時期に行い、休館日になるべく長くならないように調整したい。しかしながら、休館日は設けることになるのでご了承ください。

6 閉会